

### 第3回名張市立病院改革検討委員会議事録

平成20年10月16日(木)

午後4時～

名張市立病院 第1会議室

#### <出席者>

○名張市立病院改革検討委員会委員（50音順）

	所属機関	役職	氏名
福祉関係者	名張市社会福祉協議会	会長	石井 洋子
学識経験者	皇學館大學社会福祉学部	准教授	岩崎 利彦
学識経験者	松阪厚生病院	医事課長	千馬 徹
医療行政関係者	三重県伊賀保健所	所長	中山 治
市民代表	名張市民生委員・児童委員協議会連合会	会長	東尾 貢
市民代表	金つなぎの会	代表	廣野 光子
地域医療関係者	名賀医師会	副会長	矢倉 政則
名張市職員	名張市企画財政部	行財政改革担当部長	金谷 保史
名張市職員	名張市健康福祉部	保健センター長	筒井 美智

○名張市立病院

竹内院長、前川副院長兼看護部長

事務局

山本副院長、中野事務局長、井面総務医事室長、岩名総務経営担当室長  
菅生医事担当室長、富田業務室長、総務医事室 渡邊

#### <会議内容>

##### 1. 議事

(1) 名張市立病院改革プラン（素案）（事務局）

資料1に基づき、説明

- 委員 改革と再編ネットワーク化の相互の進め方は？
- 委員 「名張市立病院改革プラン（素案）」内の「IT化推進」という表現があるが、さらに経費がかかると思われるが、経営状況との整合性は？
- 山本副院長 ガイドライン上、国が言っているのは、平成25年度までに結論を出すように求められている。  
（「名張市立病院改革プラン（素案）」は）それを踏まえた表現にしていく必要がある。
- 委員長 まとめると、平成25年度までに方向性を決めるということである。
- 事務局長 平成23年度までに経常収支比率を100%にすることは、困難であることから、平成25年度までとさせていただいていることをご理解いただきたい。
- 委員 経常収支比率が、平成23年度までに100%にすることが無理で、また、平成25年度までを目途に再編ネットワーク化を視野に入れた改革プランと受け取れる。
- 委員 過去の会議資料を拝見した時に、平成23年度はもちろん平成25年度までに経常収支比率を100%とすることは到底無理だと思う。  
また、平成25年度になれば今よりもっと大変になっている可能性がある。したがって、今出来る改革をしながら、とりあえず、平成23年度で一旦節目をつける必要があるのではないか。そのためにも今、必死になって取り組んでいく必要があるのではないか。
- 山本副院長 金谷委員の発言に関して、経営状況に対する考え方に対して、経営の自立する、自立しないという問題から、再編ネットワーク化を検討するのではなく、三重県内の医療資源の動向も注目していく必要がある。したがって、経営自立と並行して検討していく必要がある。そのための方向付けを今やろうとしている。
- 副委員長 経営状況を左右するためには、内科医師の確保が重要とな

ってくる。これから3年間でこの確保は難しいと考えている。この部分に関して事務局の見通しは？

○委員 前回の会議の際に、院長先生は、内科の先生をかなり擁護した発言があった。しかし、私は市民の一人として、少し甘やかしすぎているのではないかと考えるがそのあたりはどのように考えている。

○院長 平成17・18年度において、相当無理をした結果、過重労働となり、(内科においての)不満が平成19年度に噴出した。その際に病院を引き揚げるといふまさに病院崩壊の危機に瀕した。そこで、(内科)病床制限、内科・循環器科の完全紹介外来制など、緊急避難的にいろいろな方策を行って(病院を)維持した経緯があり、赤字に陥った。

○委員長 「第4章 経営改革の考え方(11ページ)」における3つの基本方針(自立継続できる病院づくり、市民に信頼される安心・安全の病院づくり、働きがいのある病院づくり)とあともうひとつ「地域の医療機関との連携」ということがなければ改革というものなかなかうまくいかないのではないか。

○前川副院長 この改革プランは、医師が増えた中での見込みであり、掲げている目標値は、現場にいるものからではとても無理な数値ではないかと危惧している。

○委員 医師が増えれば収支はあっていくのか。

○前川副院長 入院患者数が少ないので、現状の看護師数で入院基本料7対1であるが、入院患者数が増えればまた、(入院基本料)10対1に戻る。その結果1人あたりの単価が下がり、その分収益が落ちることとなる。

○委員 出来ない無理に対して何とかしていこうという気持ちに(現場は)ならないのでしょうか。

○山本副院長 平成23年度までに黒字にすることは、全国の病院のうち80%が赤字となっている病院も含めて無理である。そういった中で、黒字となる年度を明確化すべきという観点から数値を挙げている。

- 委員 主な経営指標を現プランでは平成23年度でとめているのを全て平成25年度まで数値目標を掲げるべきである。
- 委員 表現が自治体病院らしい。民間病院の発想からいうとまず「収益の確保」そして「医療の質の向上」それに市民の信頼が付随してくる。また、病床利用率92.5%は「ほぼ100%」である。
- 委員 民間病院がしない抗がん治療など、公立病院にしかできない強みをアピールしていく。市立四日市病院の院長先生のお考えでは「スター医師」を作る。また、松阪市民病院では看護師には、がんばったあかつきにはこんないいことがある「にんじん作戦」をしたりしている。
- 委員長 がんばっている医師と（そうでない）医師でメリハリをつける必要がある。そうでないとモチベーションが下がる。
- 委員 IT化によって費用が莫大となるが、どのようにしていくのか。
- 事務局 電子レセプト化は、平成22年度より（200床の病院が）義務化され、約2千万必要であると試算している。
- 事務局 現行のオーダリングシステムのリース切れとなり、また老朽化している。そういった電子カルテに関しても導入を視野に入れていかなければならない。また、そういった費用も入れたシュミレーションとなっている。
- 委員長 補助金をつけて進めていく必要がある。

## 2. その他

- ・次回開催日について

平成20年11月8日（土）午後1時より

開催することになった。